教科	国語	学年	第3学年

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界はうつくしいと	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。		【態】進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
握手	3	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。	【態】物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。
意見を聞き、適切さを判断する	2	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。	【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
説得力のある構成を考えよう	5	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。（思・判・表A(1)イ） ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。	【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
漢文	5	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。（知・技(3)イ） ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。	【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
作られた「物語」を超えて	5	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。（知・技(2)ア） ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。	【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。	【態】進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
論理の展開を意識して書こう	3	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。（知・技(2)ア） ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →資料から読み取った事実の中から、自分の意見を支える適切な根拠を選んでいる。	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →課題に沿って資料を読み解き、読み取った事実と、自分の解釈や考えを整理して書き出している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。	【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。
俳句の可能性	5	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。	【態】進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
言葉の釣り糸を垂らす	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。	【態】筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
実用的な文章を読もう／報道文を比較して読もう	3	◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。（知・技(1)ウ） ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。（知・技(2)ア） ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) →示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、 集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。	【態】 ・文章の種類を踏まえて、積極的に情　　報を読み取り、学習課題に沿って実生　活への生かし方を考えようとしている。 ・文章の構成や論理の展開、表現のし　かたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
挨拶――原爆の写真によせて	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。	【態】詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
故郷	5	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。（知・技(3)オ） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。	【態】文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
複数の意見を読んで、考えよう	3	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。（知・技(3)オ） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考える きっかけとなることに気づいている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。	【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
考えを効果的に伝えよう	5	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。（知・技(2)ア） ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。（思・判・表B(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。	生かして論理の展開を考えている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。	【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
聴きひたる　初恋	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。		【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
君待つと――万葉・古今・新古今	3	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。（知・技(3)イ） ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →三つの歌集の歌を音読したり、比較したりして、そこに詠まれた情景や心情を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。	【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。	【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
夏草 ――「おくのほそ道」から	4	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。（知・技(3)イ） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →心に響いた俳句やその一節を引用し、その理由などを発表している。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。	【態】作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表しようとしている。
それでも、言葉を	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。（知・技(2)ア） ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。	【態】言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。
合意形成に向けて話し合おう	3	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。（知・技(2)ア） ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめたりしている。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。	【態】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
温かいスープ	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。（知・技(3)オ） ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の考え方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。	【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
わたしを束ねないで	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。	【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
三年間の歩みを振り返ろう	4	◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。（知・技(1)ウ） ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) →自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫している。	【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。